

2026 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制 入学試験

【 専門一次試験 】
問題冊子

試験開始まで次の注意事項を熟読すること。

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子は開かないこと。
2. 問題は1～4ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答は問題の指示に従い解答用紙の所定欄に黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入すること。
【重要】問題の指示に沿った方法で解答用紙に解答を記入すること。
4. 解答用紙の所定欄に受験番号・氏名を記入すること。
解答用紙の所定欄に受験番号・氏名の記入がない場合は採点対象としない。
5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. いかなる場合でも解答用紙を提出すること。
7. すべての試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

以上

2026 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制 入学試験問題
【専門一次試験】

【設問 1】

全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 3,000 人を対象に、脱炭素社会の実現に向けた取組への意欲を 2020 年と 2023 年のそれぞれにおいて尋ねた。そのうち、脱炭素社会の実現に向け、一人一人が二酸化炭素などの排出を減らす取組について、「あまり取り組みたくない」、「全く取り組みたくない」と答えた者に、取組を行いたくない理由を複数回答で得た（表 1）。

- (1) 表 1 から、18～39 歳と 50 歳以上の差異として顕著に読み取れる特徴を簡潔に記しなさい。(100 字以内)
- (2) 上記(1)もしくはその他の特徴を踏まえ、脱炭素社会の実現に向けて効果的だと考えられる対策を述べよ。(100 字以内)

表 1 脱炭素社会の実現に向けた取組を行いたくない理由

		調査実施年	該当者数(人)	1. 経済的なコストがかかるから(%)	2. 手間がかかるから(%)	3. どのような基準で選択し取組めばよいか情報不足(%)	4. 日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい(%)	5. 地球温暖化対策として効果があるのかわからない(%)	6. 地球温暖化への対策を行う必要性を感じない(%)	7. その他(%)	8. 特にない(%)	無回答(%)	計(複数回答の合計(%) ※)
全体		2020	126	19.0	18.3	45.2	27.8	48.4	15.1	12.7	5.6	4.0	196.0
		2023	122	21.3	23.8	30.3	27.9	47.5	14.8	14.8	7.4	4.9	192.6
男女別	男性	2020	68	16.2	20.6	47.1	20.6	51.5	22.1	17.6	4.4	5.9	205.9
		2023	74	25.7	28.4	31.1	21.6	47.3	21.6	17.6	9.5	2.7	205.4
	女性	2020	58	22.4	15.5	43.1	36.2	44.8	6.9	6.9	6.9	1.7	184.5
		2023	48	14.6	16.7	29.2	37.5	47.9	4.2	10.4	4.2	8.3	172.9
年代別	18～29歳	2020	16	6.3	37.5	56.3	6.3	43.8	18.8	6.3	12.5	-	187.5
		2023	14	42.9	57.1	28.6	-	50.0	28.6	14.3	14.3	-	235.7
	30～39歳	2020	17	11.8	41.2	41.2	35.3	47.1	23.5	17.6	-	-	217.6
		2023	16	31.3	37.5	43.8	18.8	62.5	6.3	6.3	-	-	206.3
	40～49歳	2020	23	13.0	13.0	47.8	34.8	52.2	13.0	13.0	4.3	-	191.3
		2023	19	31.6	21.1	42.1	36.8	47.4	26.3	5.3	10.5	-	221.1
	50～59歳	2020	17	23.5	11.8	52.9	17.6	52.9	35.3	23.5	-	5.9	223.5
		2023	19	21.1	10.5	15.8	26.3	57.9	5.3	31.6	5.3	5.3	178.9
	60～69歳	2020	15	33.3	13.3	60.0	33.3	53.3	13.3	13.3	-	-	220.0
		2023	17	5.9	5.9	35.3	11.8	58.8	35.3	35.3	11.8	-	200.0
	70歳以上	2020	38	23.7	7.9	31.6	31.6	44.7	2.6	7.9	10.5	10.5	171.1
		2023	37	10.8	21.6	24.3	45.9	29.7	2.7	5.4	5.4	13.5	159.5

※脱炭素社会の実現に向け、一人一人が二酸化炭素などの排出を減らす取組について、「あまり取り組みたくない」、「全く取り組みたくない」と答えた者が複数回答をした。

出典： 内閣府政府広報室 2021 年・2023 年

<https://survey.gov-online.go.jp/r02/r02-kikohendo/>

<https://survey.gov-online.go.jp/r05/r05-kikohendo/>

※WEB 掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

出典：内閣府世論調査「気候変動に関する世論調査」

(<https://survey.gov-online.go.jp/r05/r05-kikohendo/table/PR0502008.csv>)

(<https://survey.gov-online.go.jp/r02/r02-kikohendo/gairyaku.pdf>)

を加工して作成

【設問 2】

Innocenti Report Card 19: Child Well-Being in an Unpredictable World (2025 年 5 月公開) は、経済協力開発機構 (OECD) 及び欧州連合 (EU) の 43 か国の子どもの Well-Being を、2018 年と 2022 年に同じ指標を用いて評価し、三分野 (精神的幸福度、身体的健康、スキル) に基づき、各国の順位を示したものである。Innocenti Report Card 16: Worlds of Influence, Understanding What Shapes Child Well-being in Rich Countries (2020 年 9 月公開) と比較し、今回、日本の総合 (三分野の統合) 順位は、20 位から 14 位と上昇している。分野別では、精神的幸福度は 37 位から 32 位、身体的健康は 1 位を維持、スキルは 27 位から 12 位となった。以下に示す図 1 と図 2 は、それぞれ、Innocenti Report Card 19 における精神的幸福度の下位指標となる生活満足度と自殺率の変化を示している。

- (1) 図 1 と図 2 から、日本の子どもの精神的幸福度について事実として読み取れることは何か、着目すべき一点を取り上げて簡潔に記しなさい。(80 字以内)
- (2) 上記(1)をどのように解釈するか、あなたの仮説を簡潔に記しなさい。(100 字以内)
- (3) 上記(2)の仮説を検証するとしたら、今後、あなたはまず何を知りたいか (どのようなデータを得たいか)、理由と併せて簡潔に記しなさい。(120 字以内)

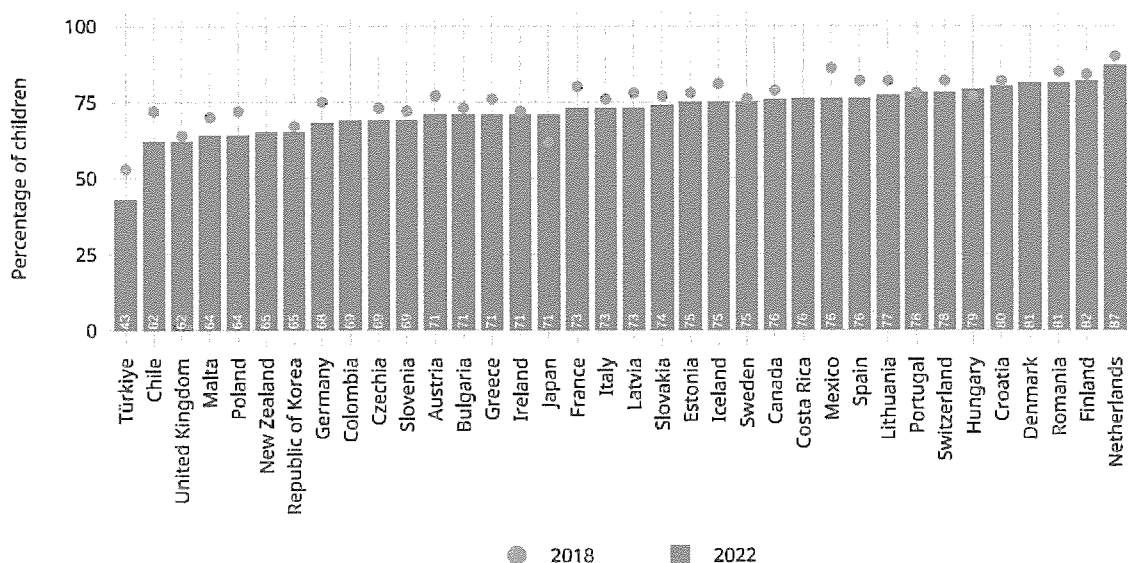


図 1 生活満足度を 1 (不満足) ～10 (満足) のスケールで 5 以上と答えた 15 歳の子どもの割合の変化

※WEB 掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

Based on data from OECD (2023), "Changes in high life satisfaction in 15-year-olds, 2018 to 2022 (Figure II.2.6 in PISA 2022 Results, Volume II)", available in the PISA Data Explorer under CC BY 4.0.

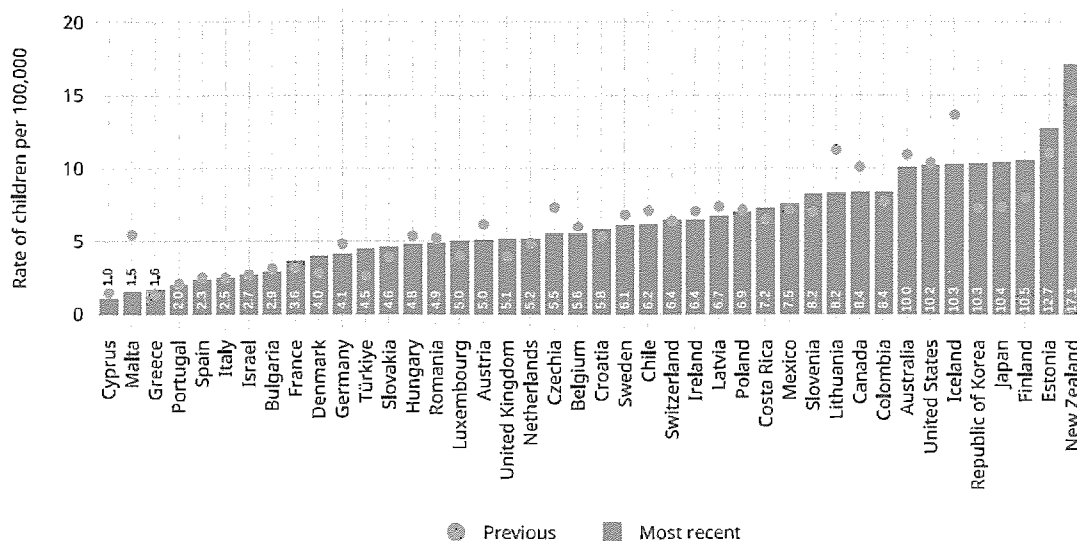


図2 15～19歳人口10万人あたりの自殺率の変化：「2018～2020年（Previous）」と「2020～2022年（Most recent）」の各3年の平均の比較

※一部の国については、2022年のデータが未公開のため、直近4年間で利用可能な期間のデータが使用されている。

出典：Innocenti Report Card 19: Child Well-Being in an Unpredictable World

<https://www.unicef.org/innocenti/media/11111/file/UNICEF-Innocenti-Report-Card-19-Child-Wellbeing-Unpredictable-World-2025.pdf>

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

Based on data from WHO (2023), "Figure 3: Changes in suicide rates (three-year average), ages 15 to 19 years, 2018 to 2022 (or most recent 4-year period available) " WHO Mortality Database under CC BY-NC-SA 3.0 IGO.

【設問 3】

日本国語大辞典第二版によると、「わび」とは「簡素の中にある落ち着いたさびしい感じ」のことである。このように、ある文化（または、コミュニティや集団など）にはその文化に固有の感覚や感情を表す言葉が存在する。その文化内の人たちは、その言葉がどのような意味であるのかを問われても、説明することは難しい。しかしながら、その言葉はその文化内の人たちには確かに共有されている。若者言葉の「エモい」などもその例である。そのような言葉が意味する感覚や感情について学術的な理解を深めるためには、どのような実験・調査が考えられるだろうか。その具体的計画を 200～300 字程度で説明せよ。

出典：日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部・北原保雄. 日本国語大辞典 第二版（2025 年 7 月 5 日閲覧）

受験 番号					
氏名					

2026年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程2年制 入学試験解答用紙

〔専門一次試験〕

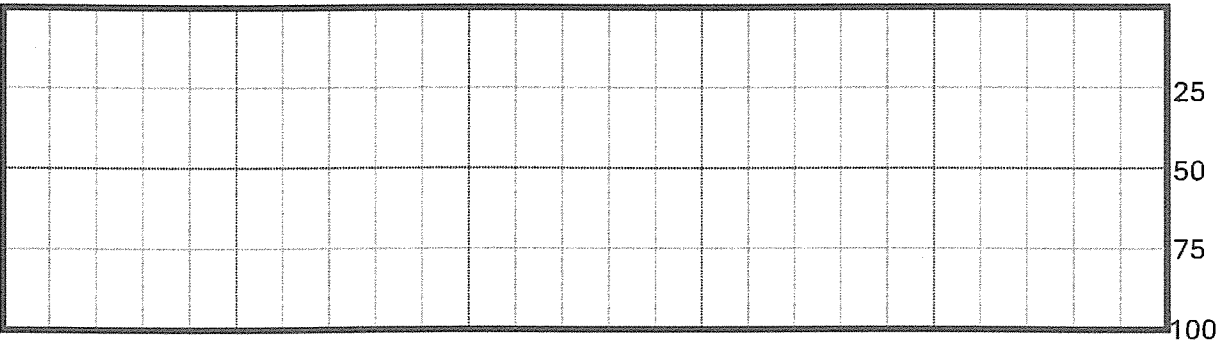
採点欄

※受験番号、氏名を左上の所定欄に必ず記入すること。未記入のものは採点の対象としない。

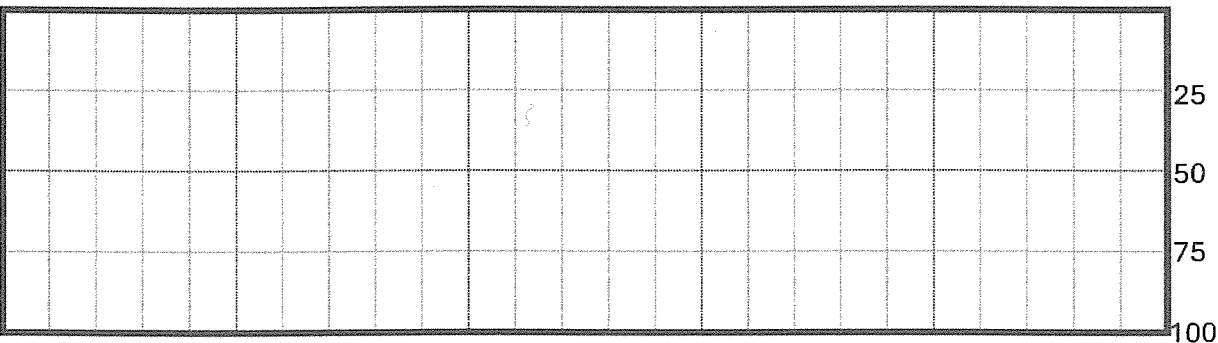
※余白には何も記入しないこと。

【設問 1】

(1)

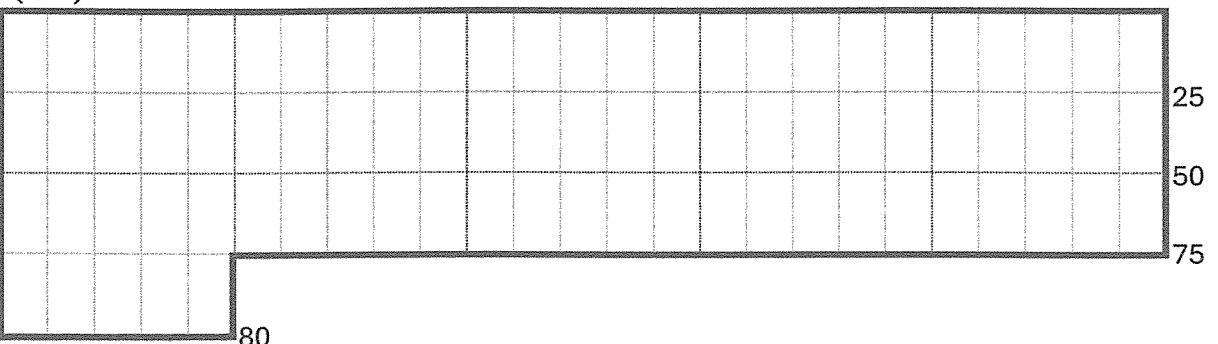


(2)

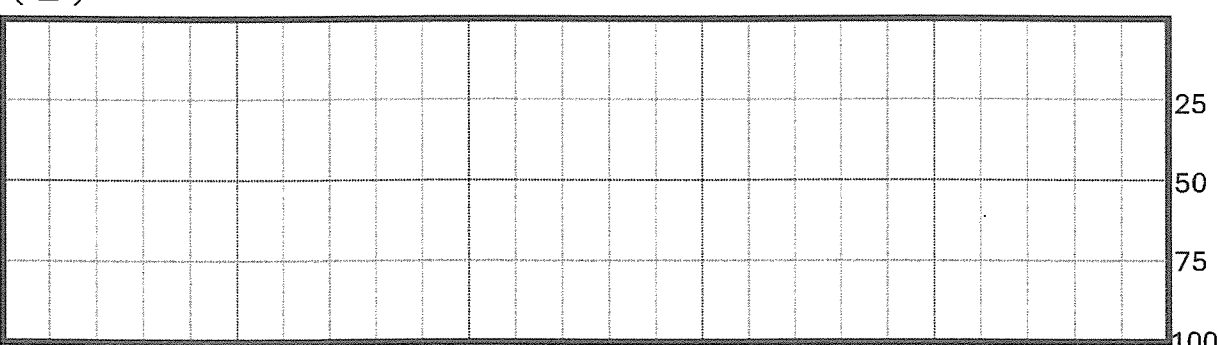


【設問 2】

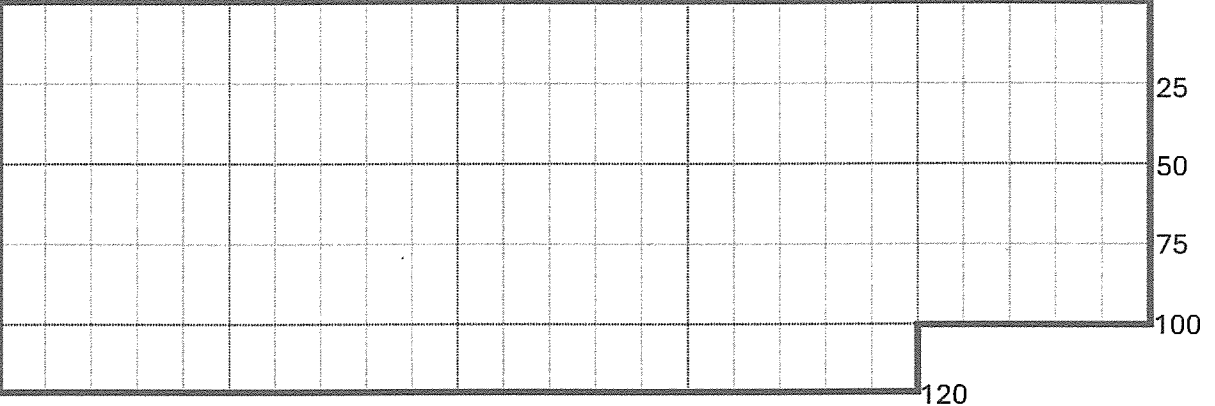
(1)



(2)



(3)



【設問 3】

